

西普天間住宅地「歴史の道」沿いには、湧水・拝所・グスク・集落跡など、地域を支えた多様な文化財が見られます。



喜友名グスクに関するウナダルヌメー(位の高い女性)が、水浴びをしたと伝えられています。名称は芭蕉に由来と言われています。



「フニクンジャー石」と呼ばれる岩や、「ジンナト」という地名から大昔、当付近は港だったという伝承があります。



壁面に「伊佐浜水源地 着工 1959年2月」等が記されています。



新城古村落のムラガ一であったと言われています(調査中)。



湧泉と棚田地形により、歴史的景観を想起させます。



戦前、屋号「ノグニ」の屋敷、北側にあり、伊佐浜の方からは「ウシヤミシガー」と呼ばれていました。*継続調査中



バシガーに似ており、樋口を設けています。下流には棚田が広がり、近くには「ミーガマーチ」と呼ばれる大きな平松がありました。現在は、同じ位置にアコウの大木があります。

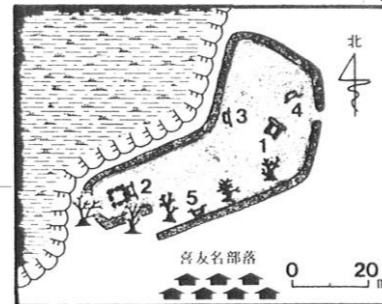


喜友名集落と高低差 25m の位置にあり、急勾配の石畳道(約 120m)が続きます。二つの湧泉や構造、意匠に優れた石造技術が見られます。



喜友名集落の聖地であり、近世には拝所が5~6箇所ありました。

(番外)喜友名集落は近世集落の典型であり、集落周囲には石獅子(市指定文化財)七体が鎮座しています。



喜友名集落の聖地であり、近世には拝所が5~6箇所ありました。



戦前、屋号「ノグニ」の屋敷、北側にあり、伊佐浜の方からは「ウシヤミシガー」と呼ばれていました。*継続調査中



「屋敷の石積み」「区画跡」*現在、上図は米軍基地内にあります。



「屋敷の石積み」「区画跡」*現在、上図は米軍基地内にあります。



宿道沿いには「石切場跡」および「ハンタ毛」なども見られます。



宿道沿いには「石切場跡」および「ハンタ毛」なども見られます。



戦前、屋号「ノグニ」の屋敷、北側にあり、伊佐浜の方からは「ウシヤミシガー」と呼ばれていました。*継続調査中



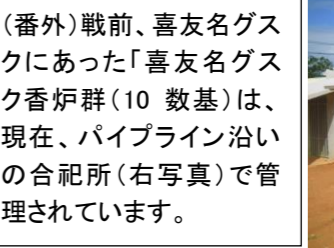
戦前、屋号「ノグニ」の屋敷、北側にあり、伊佐浜の方からは「ウシヤミシガー」と呼ばれていました。*継続調査中



戦前まで、喜友名グスクに次ぐ喜友名の拝所であり、自然洞穴を利用した墓でもありました。内部には5~6個の香炉が安置されており、戦時中は、避難豪の1つとしても利用されていました。



戦前まで、喜友名グスクに次ぐ喜友名の拝所であり、自然洞穴を利用した墓でもありました。内部には5~6個の香炉が安置されており、戦時中は、避難豪の1つとしても利用されていました。



(番外)戦前、喜友名グスクにあった「喜友名グスク香炉群(10数基)は、現在、パイプライン沿いの合祀所(右写真)で管理されています。



(番外)戦前、喜友名グスクにあった「喜友名グスク香炉群(10数基)は、現在、パイプライン沿いの合祀所(右写真)で管理されています。